

ロケット打ち上げ 大樹で 東海大実験

【大樹】東海大学工学部航空宇宙学科の学生と教授で構成する同大学生ロケットプロジェクト「前1時すぎ」町多目的航空公



打ち上げ実験後に発射台などを確認する東海大学の学生ら（11日午前11時半ごろ、塩原真撮影）

学生35人が7日に来町し、教員2人とも準備に当たった。使用したロケットは全長1.777メートル、重量約8.5キログラム。予定よりも早く機体とパラシュートが分離するが想定外の出来事も発生。学生らは機体を回収し、メモリー用機器を調べ、原因や東京海洋大学が開発したGPS（全地球測位システム）が機能したかなどを調べる予定。中篠講師は「今までの実験で成功し信頼性の高い分離回路を使った。原因を調べるとともに、メモリー機器を回収してデータが生きているか確認したい」と話していた。打ち上げ実験は13日にも行われる予定。（北雅真）